

2026年3月期 第1四半期

アルピコホールディングス株式会社
決算補足説明資料
(東証スタンダード 証券コード 297A)

2025年8月6日

目次

1. 2026年3月期 第1四半期決算概況・・・・・・・・・・	2頁
2. 2026年3月期 見通し・・・・・・・・・・	11頁
3. 長期ビジョン及び中期経営計画の概要・・・・・・・・	18頁
APPENDIX・・・・・・・・・・	24頁

« 注意事項 »

- 本資料は、当社及び当社グループの情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。投資をされる際は、ご自身の判断と責任で行われますよう、お願いいたします。
- 本資料は、当社及び当社グループの見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通し等に関する記述は、現時点で入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいて当社が作成したものであります。実際の業績は、様々な要因により予想数値と著しく異なる結果となる可能性があります。
- 当社及び当社グループ以外に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
また、本資料は2025年6月30日現在のデータに基づいて作成しております。本資料の転載はご遠慮ください。

1. 2026年3月期 第1四半期 決算概況

2026年3月期 第1四半期決算概要（連結）

■決算概況

（単位：百万円、百万円未満切捨て）

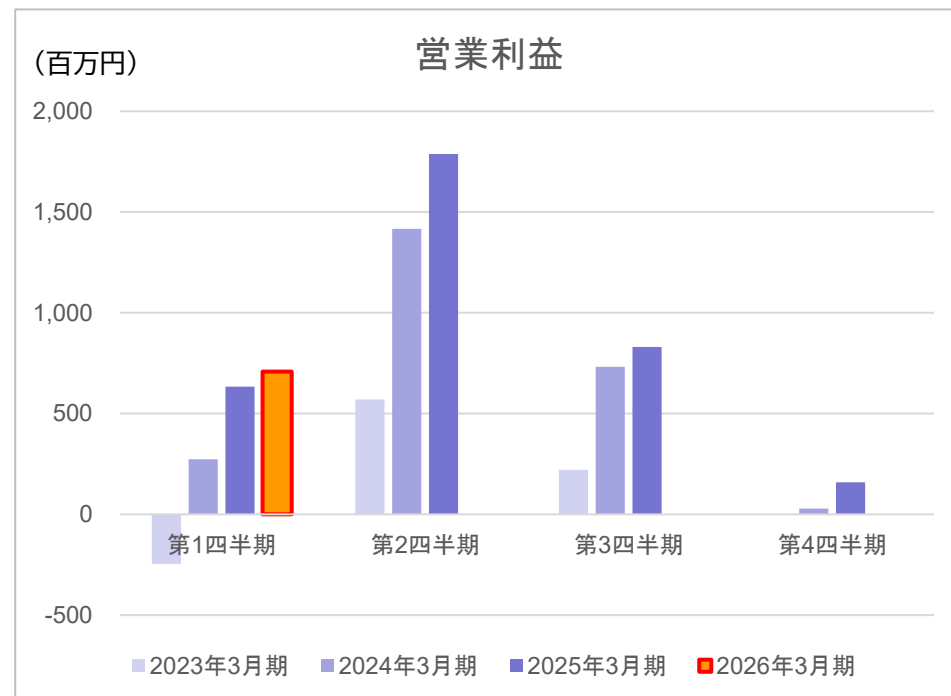
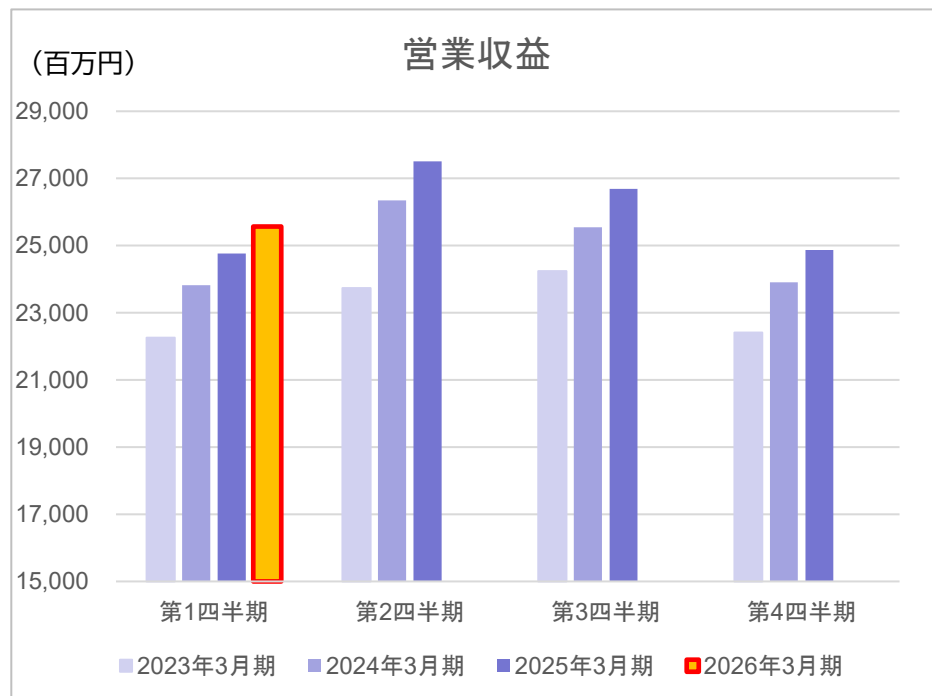
	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前期比	
				増減率（％）
営業収益	24,768	25,568	799	3.2
営業利益	634	708	73	11.7
経常利益	577	646	69	12.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	654	395	△258	△39.5

不動産事業は減収でしたが、流通、運輸、観光及びその他のサービス事業は顧客増、運賃や商品価格の改定等による増収で、連結の営業収益は前年同期比で増収となりました。販売費及び一般管理費で人件費等のコスト増がありましたが、コロナ禍時からのコスト削減の取組み等もあり、営業利益、経常利益はいずれも前年同期比で増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期までで繰越欠損金が解消となったために税金費用の増加等により、前年同期比では減益となりました。

四半期別の営業収益、営業利益（連結）

■ 四半期推移



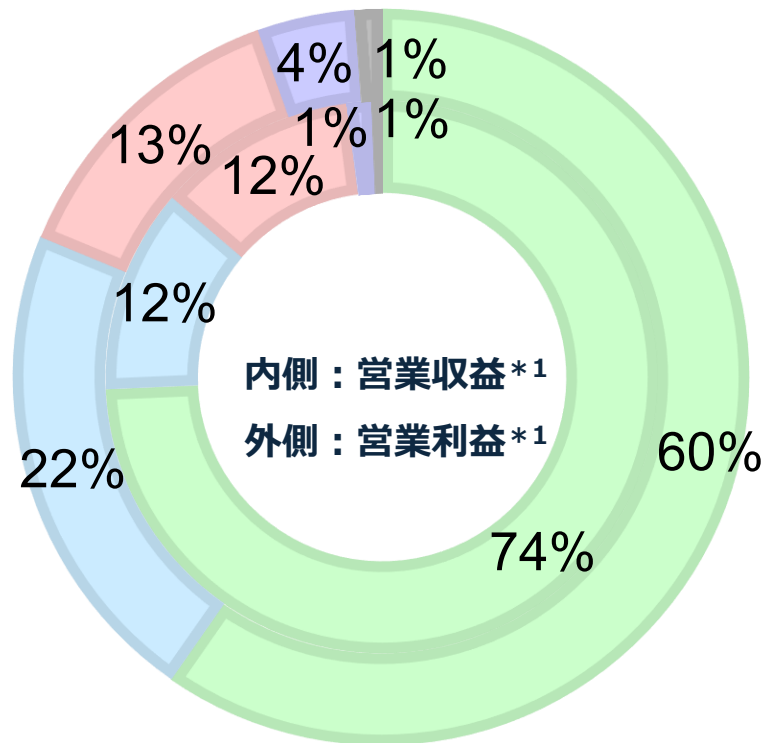
概 況

- 当社グループの業績には季節変動があります。利益面では、例年グリーンシーズン（4～11月）である第2四半期のウエイトが高くなっております。
- 2026年3月期も同様の傾向にあるものと見込んでおります。

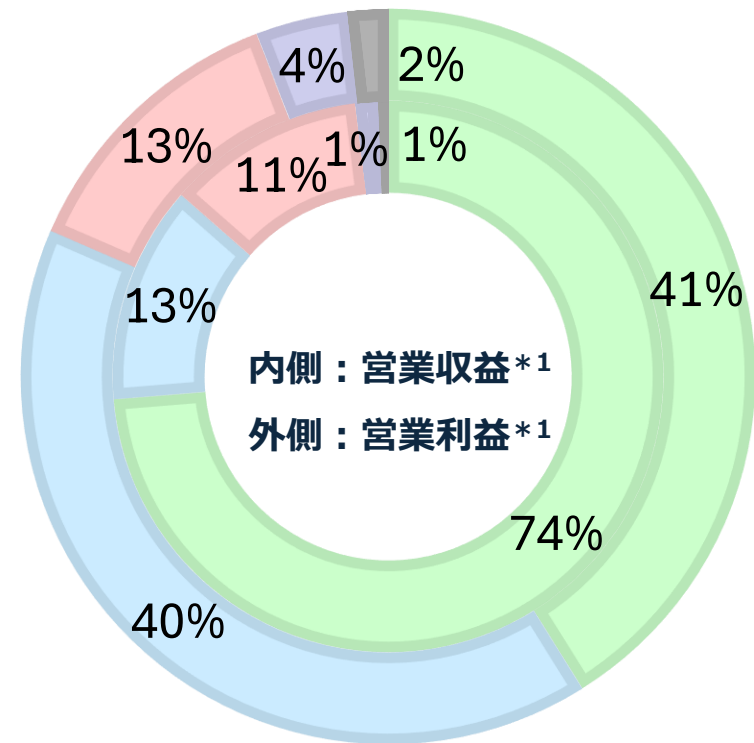
事業セグメント別営業収益、営業利益（連結） 構成比

■事業セグメント別構成比

【2026年3月期第1四半期】



【2025年3月期 通期】



流通事業

運輸事業

観光事業

不動産事業

その他のサービス事業*2

*1 営業収益、営業利益は報告セグメントベース
*2 その他のサービス事業は保険事業など

- 第1四半期の営業利益は、例年、流通事業の割合が高くなっております。

事業セグメント・業績概要（第1四半期）

（単位：百万円、百万円未満切捨て）

■①流通事業

	2025年 3月期1Q	2026年 3月期1Q	前期比	
			増減額	増減率
営業収益	18,694	19,054	359	1.9%
営業利益	458	515	56	12.3%

- ・営業収益は、商品価格の見直しによる単価の上昇等が寄与し前年同期比で増収となりました。
- ・営業利益は、仕入原価の上昇や人件費等のコスト増がありましたが前年同期比で増益となりました。

■②運輸事業

	2025年 3月期1Q	2026年 3月期1Q	前期比	
			増減額	増減率
営業収益	2,866	3,069	202	7.1%
営業利益	127	186	58	45.7%

- ・営業収益は、バス事業の観光系路線を中心に国内外からの需要取り込みと、一部路線での運賃改定、タクシー事業の市街地での利用回復により前年同期比で増収となりました。
- ・営業利益は、バス事業の一部路線での運賃改定により、人件費の上昇がありましたが前年同期比で大幅な増益となりました。

■③観光事業

	2025年 3月期1Q	2026年 3月期1Q	前期比	
			増減額	増減率
営業収益	2,785	2,999	213	7.7%
営業利益	69	115	46	66.7%

- ・営業収益は、ホテル・旅館の客室の改装などによる高付加価値化による客単価の上昇、サービスエリアの立ち寄り客の増加や値上げ及び旅行事業でのツアー募集の好調等により前年同期比で増収となりました。
- ・営業利益は、原価率の低いサービスエリア事業及び旅行事業の増収により前年同期比で大幅な増益となりました。

■④不動産事業

	2025年 3月期1Q	2026年 3月期1Q	前期比	
			増減額	増減率
営業収益	393	363	△29	△7.6%
営業利益	73	37	△35	△48.6%

- ・前年同期に計上した別荘分譲地管理事業の分譲区画販売の反動で、営業収益は減収、営業利益は減益となりました。

2026年3月期 第1四半期決算概要（連結）

■連結貸借対照表

（単位：百万円、百万円未満切捨て）

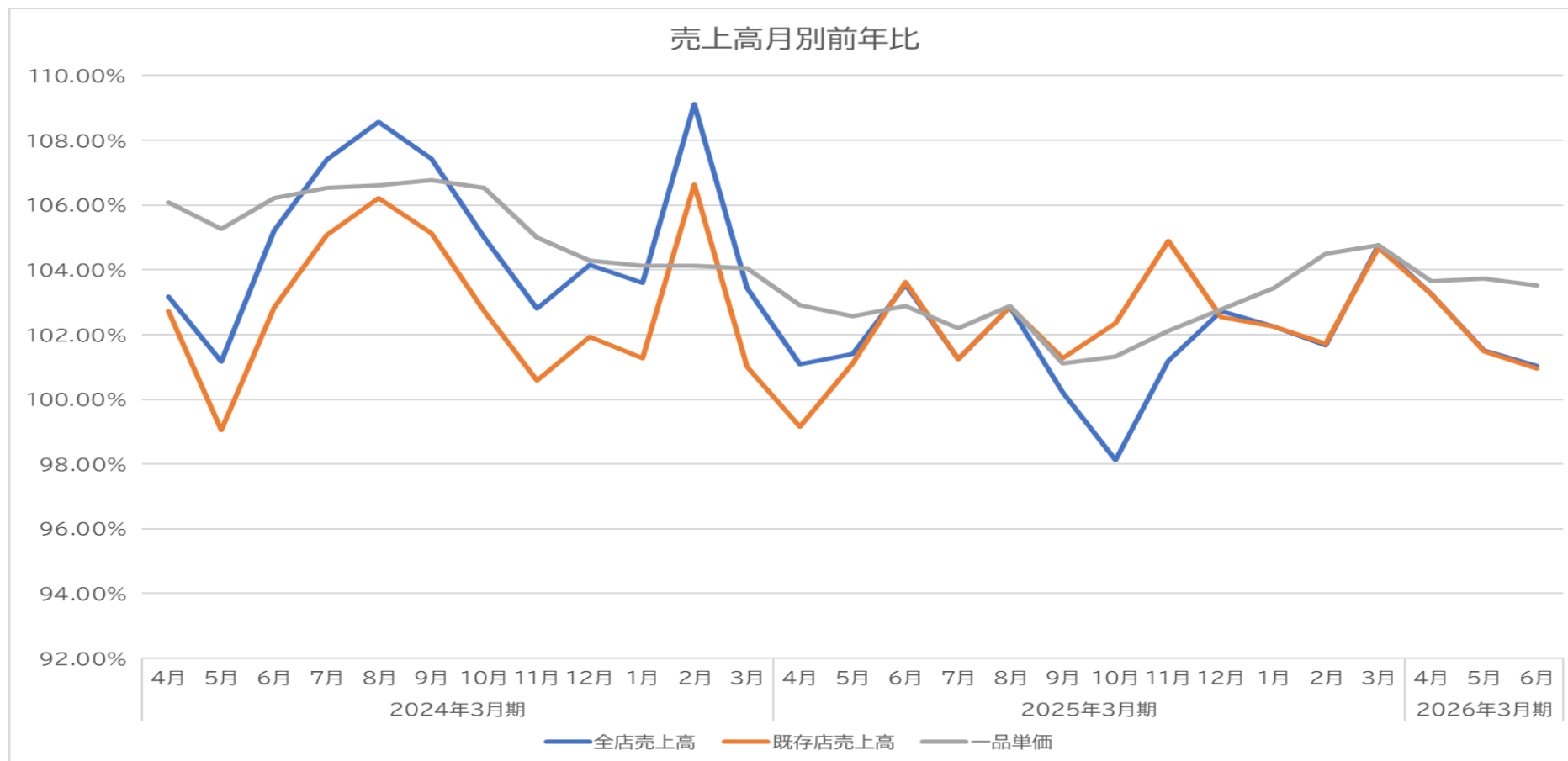
	2025年3月期 前連結会計年度	2026年3月期 第1四半期	増 減
流動資産	14,683	11,963	△2,720
固定資産	43,663	43,490	△172
資産合計	58,346	55,453	△2,893
流動負債	19,792	18,428	△1,364
固定負債	24,035	22,528	△1,507
負債合計	43,828	40,956	△2,872
純資産合計	14,518	14,497	△20
負債純資産合計	58,346	55,453	△2,893

資 産：主に流動資産で前連結会計年度末比で現金及び預金が293百万円、売掛金が289百万円及び有価証券が1,996百万円減少し、2,893百万円の減少となりました。

負 債：主に流動負債で前連結会計年度末比で1年内返済予定長期借入金が727百万円、その他が547百万円減少し、固定負債で長期借入金が1,308百万円減少し、2,872百万円の減少となりました。

純資産：前連結会計年度末比で親会社に帰属する四半期純利益が395百万円増加、剰余金の配当の支払いにより413百万円減少し、20百万円の減少となりました。

<参考資料> 流通事業 スーパーマーケット 月別売上高の前年対比



※既存店売上高は、新店店舗を除外対象としています(開店後12か月間) また大規模改装店舗についても閉店期間を含め同様に対象外としています

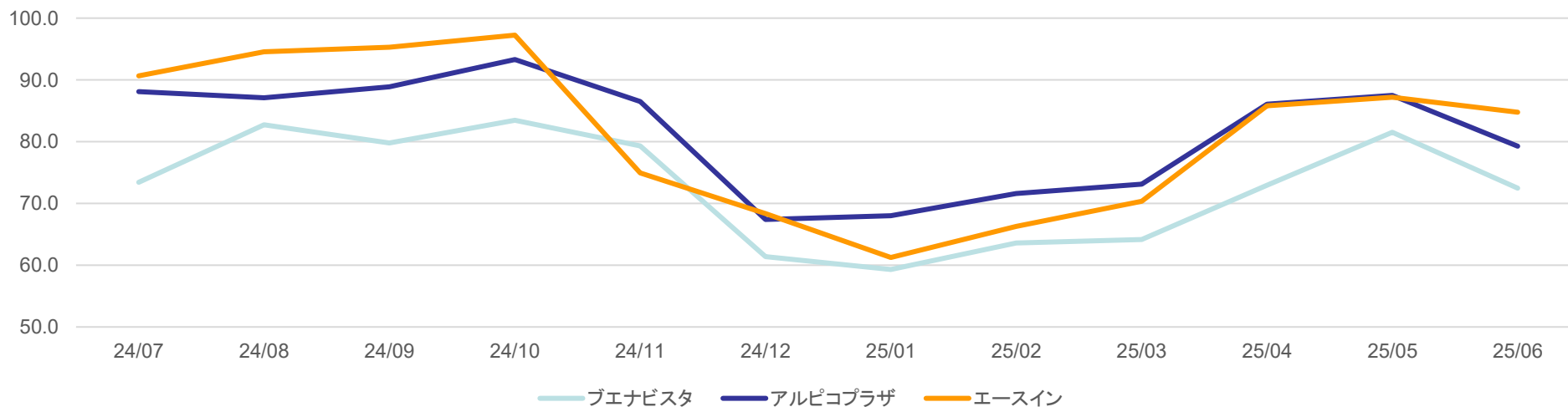
概 況

- 青果物の相場が下がった影響で、一品単価の上昇は昨年の高止まりに比べ、やや落ち着きを見せる傾向にありました。
- 第1四半期の売上伸長率は102%程度と、堅調な推移となりました。

＜参考資料＞ 観光事業 ホテルの施設別稼働率と単価の推移

			24/07	24/08	24/09	24/10	24/11	24/12	25/01	25/02	25/03	25/04	25/05	25/06	第1四半期 概況
ブエナビスタ	客室稼働率前年比	pt	5.3	4.0	8.5	9.0	7.9	8.7	16.5	6.2	0.6	3.3	2.9	3.0	稼働、単価ともに前年を上回って推移しました。早期の団体予約受注が稼働のベースとなり単価の上昇につながりました。
	室単価（ADR）前年比	%	101.5	106.0	110.0	115.8	114.5	97.5	104.1	104.1	117.9	110.5	107.3	105.4	
アルピコプラザ	客室稼働率前年比	pt	7.6	-4.3	-2.6	0.8	2.2	-7.6	0.2	-8.4	-9.5	-2.3	0.5	-0.2	一部の月で稼働が前年を下回ったものの、高単価を維持し売上を最大化する販売戦略が寄与し、売上は好調に推移しました。
	室単価（ADR）前年比	%	105.7	117.1	118.7	120.1	117.8	110.5	113.0	108.9	115.2	112.3	119.8	108.2	
エースイン	客室稼働率前年比	pt	3.9	2.4	3.2	2.7	-10.1	-1.8	0.4	0.5	-2.0	-6.4	-3.8	3.1	一部の月で稼働が前年を下回ったものの、高単価を維持し売上を最大化する販売戦略が寄与し、売上は好調に推移しました。
	室単価（ADR）前年比	%	100.0	105.9	110.3	110.7	111.4	104.5	106.2	105.0	113.7	116.8	122.7	112.1	

客室稼働率（％）

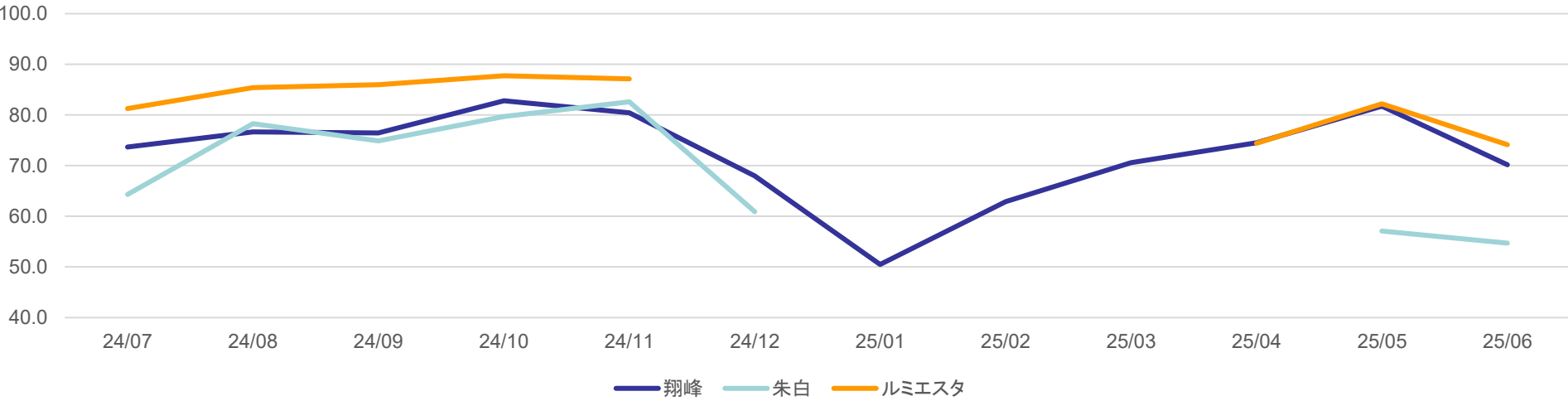


<参考資料> 観光事業 旅館の施設別稼働率と単価の推移

			24/07	24/08	24/09	24/10	24/11	24/12	25/01	25/02	25/03	25/04	25/05	25/06	第1四半期 概況
翔峰	客室稼働率前年比	pt	1.5	-0.7	-0.1	-1.5	-6.8	1.8	-6.4	2.4	-0.7	-4.9	1.4	3.0	個人は期間を通じて概ね堅調に推移しました。団体は単価を重視する方針で運営を行いました。全体としては前年を上回る売上となりました。
	客単価前年比	%	110.1	109.8	114.3	112.2	116.7	106.3	107.5	100.8	108.9	103.1	107.7	100.9	
朱白	客室稼働率前年比	pt	16.4	10.2	26.7	51.2	46.1	38.4	改装休館	改装休館	改装休館	改装休館	15.3	12.2	2025年5月1日にリニューアルオープンしました。平日の稼働に課題を残していますが客単価は大幅に向上しました。
	客単価前年比	%	113.7	102.5	113.0	92.2	89.9	88.1					111.4	115.0	
ルミエスタ	客室稼働率前年比	pt	-0.5	3.7	1.4	2.4	19.4	冬季休館	冬季休館	冬季休館	冬季休館	-	-	-3.5	6月は雨量規制により上高地エリアへのアクセス道路通行止めが複数回生じたことに伴うキャンセルの影響を受けましたが、稼働・単価ともに概ね堅調に推移しました。
	客単価前年比	%	139.9	128.8	137.4	133.1	153.9					-	-	104.0	

※ルミエスタは2024/04～2024/05まで、朱白は2025/01～2025/04まで改装のため休館

客室稼働率(%)



2. 2026年3月期通期 見通し

2026年3月期 見通し（連結）

■業績見通し

（単位百万円、百万円未満切り捨て）

	通 期				第 2 四半期（累計）			
	2025年3月 期実績	2026年3月 期予想	前年同期比		2025年3月 期実績	2026年3月 期予想	前年同期比	
			差額	増減率 (%)			差額	増減率 (%)
営業収益	103,836	105,500	1,663	1.6	52,278	53,100	821	1.6
営業利益	3,412	3,100	△312	△9.2	2,423	2,300	△123	△5.1
経常利益	3,060	2,600	△460	△15.0	2,238	2,000	△238	△10.7
親会社株主に 帰属する当期 (第2四半期)純利益	2,292	1,500	△792	△34.6	1,651	1,200	△451	△27.4

業績見通しに関する説明

- ・ 第 1 四半期が概ね計画どおりに推移していることから、2025年 5 月14日に開示しております業績見通しに修正はありません。
- ・ 賃上げ等による人件費の増加、繰越欠損金の解消による税金費用の増加等により、減益を見込んでおります。
- ・ 原材料価格やエネルギー価格は高止まりすることが想定されるため、価格見直しを進めるとともに、コスト削減と生産性の向上により収益性の改善に努めてまいります。

流通事業

✓新たな店舗ブランド「デリシアミールズ」を中心
とした総菜強化型店舗への改装・新規出店

運輸事業

✓上高地や白馬などの観光路線バスの強化

観光事業

✓既存施設を改装し高単価路線への転換

不動産事業

✓長野県内主要観光地におけるエリア開発

➤ 新たな店舗ブランド「デリシアミールズ」を中心とした総菜強化型店舗の新規出店と店舗ブランドの改装や、新たな販売チャネルの開拓

- ✓ 生活様式の変化（共働き世帯の増加）や高齢化による中食需要の拡大に対応した**“お総菜”**の強化
- ✓ 2025年度は長野市川中島での新規出店と1店舗の改装を計画
- ✓ 新たな販売チャネルの開拓：とくし丸は38台、ネットスーパーは長野県全77市町村をカバー



移動スーパー「とくし丸」

デリシアネットスーパー

ピコカプラスカード



とくし丸 38台稼働（2025年6月末）



18拠点稼働（2025年6月末）
長野県全77市町村をカバー



運輸事業の成長戦略

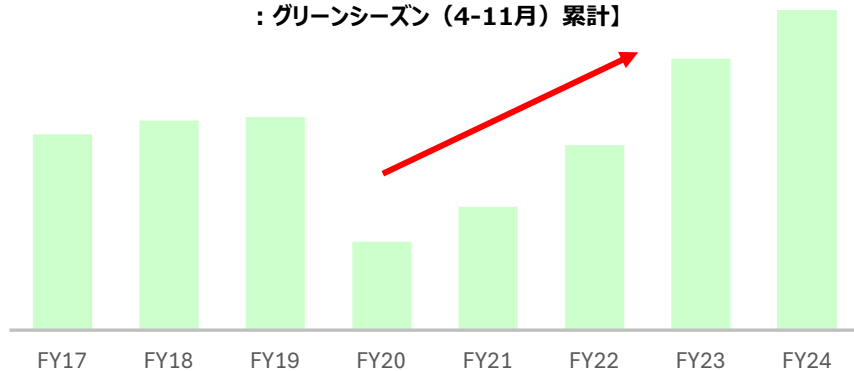
- FY24（2025年3月期）は上高地・白馬エリア共に、乗降客数は前年を上回る利用実績
- さらなるインバウンドの増加が期待される、上高地・白馬エリアを中心とした観光路線バス強化
- タクシー事業は、軽井沢エリアに営業所を新設予定（2025年10月）

上高地・乗鞍・白骨エリアの路線バス



【上高地・乗鞍・白骨エリアの路線バス需要（乗降客数）

：グリーンシーズン（4-11月）累計

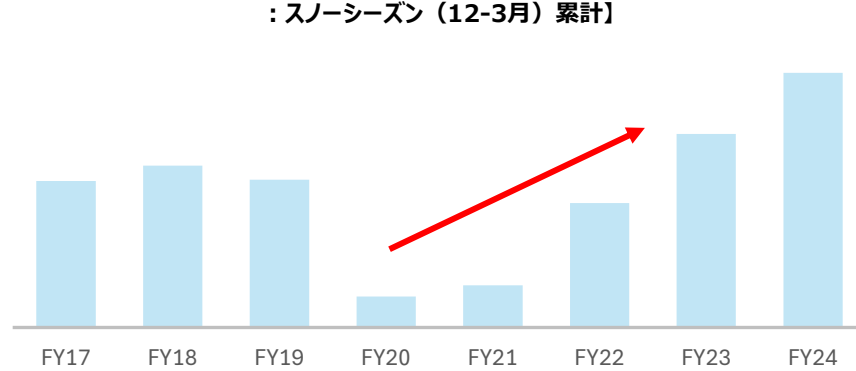


白馬エリアの路線バス



【特急バス長野-白馬線の需要（乗降客数）

：スノーシーズン（12-3月）累計



➤ 客室の改装などによる高付加価値化による客単価の上昇

※改装後の客室稼働率、客単価は10ページに記載

※2025年に「ホテルブエナビスタ」、2025～2026年に「美ヶ原温泉 翔峰」の改装を計画

■ 上高地ルミエスタホテルの高付加価値化改装



(リニューアル後の客室例)

上高地ルミエスタホテルは、2024年に16室の客室を大幅リニューアル

上高地圏内でも有数の広い客室で、45㎡以上の広い客室には大自然を存分に楽しめる幅5mの映画館のスクリーンのような窓をあしらえ、独立型で大型の浴槽には贅沢に温泉を源泉かけ流し、快適な滞在を提供

■ 「双泉の宿 朱白」を高付加価値化改装し、「信州上諏訪温泉 諏訪別邸 朱白」に

「双泉の宿 朱白」は、大規模改装を経て「信州上諏訪温泉 諏訪別邸 朱白」と屋号を新たに2025年5月1日にリニューアルオープン
新たに誕生した「湖面客室」は、従来の12室を6室に拡張、改装し、旅館近くの諏訪湖の景色を存分に楽しめる特別な客室に、また、食事会場やロビーも一新し、より快適で贅沢な空間をご提供



(リニューアル後の客室例)

株主還元について

➤ 当社は、配当をメインの株主還元策としております。

なお、株主優待を行う場合には、速やかに適時開示いたします。

■配当金について

普通株式 1株当たり配当金	2025年3月期	2026年3月期予想
中間配当金	0.00円	0.00円
期末配当金	普通配当3.00円 上場記念配当2.00円	5.00円
年間配当金	5.00円	5.00円

配当金に関する方針

- 当社は、グループ全体の経営基盤の強化、企業価値の向上を図ることで財務体質を強化し、株主の皆様に対して安定した配当を維持し、期末配当として年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。
- 2026年3月期の期末配当金は、普通株式1株当たり5.00円を予定しております。

3.長期ビジョン及び 中期経営計画（2025-2027）

ALPICO VISION 2035

2035年のありたい姿

「楽しさ・ときめき」を創出し、付加価値を高めることで
持続的な地域の発展に貢献している企業グループ

アルピコグループが提供する価値

従業員	お客様	地域社会	お取引先	株主
誇りを持って 生き活きと働ける 環境	ニーズに応えた 高品質な サービス・商品	便利で快適な 生活インフラの 提供	相互の利益を 追求する強固な パートナーシップ	長期的な 企業価値向上

長期ビジョン概要：2035年までの方向性

- アルピコグループは生活インフラ提供、観光振興を通じ地域価値を向上させ、『楽しさ・ときめき』を創出して地域と共に成長していく。これらの取り組みを持続可能なものにするために、経営基盤を強化していく

便利で快適な暮らしを実現する 生活インフラを提供

- 地域密着型スーパーマーケットとして、店舗網・販売チャネルの充実による面的展開
- バス、タクシー、オンデマンド、ライドシェア等のベストミックスによる人口減・高齢化社会への順応
- 自動運転、AIなどの新技術の積極的導入、効率的かつ顧客利便性の高い交通システムの構築
- 所有不動産および取得不動産を活用した新たな街づくりの推進



世界に誇る山岳リゾート信州の 価値創造

- 長野県を代表する総合観光・リゾート企業としてのブランドの定着・浸透
- 長野県全域における観光資源の開拓・高付加価値化、アクセシビリティの確保による世界に選ばれる観光地域の創設
- 別荘事業および新たな不動産事業による二拠点居住・リモート居住等新たなライフスタイルの提供
- インバウンド観光産業をエンジンとして、地域社会の持続性を高める

安全・安心を基盤としたサステナビリティ経営

- 安全・安心を維持向上させるための計画的な設備投資、施策展開
- 地域社会との連携強化、地域活性化への貢献
- 人的資本投資、ダイバーシティ・インクルージョン
- 環境経営実施
- ICT技術をフル活用したビジネス変革
- 地域価値向上につながる新規事業開発

中期経営計画概要

VISION（2027年のあるべき姿）

- グループ総合力を発揮し、新たな事業価値の創造を積極的に展開している企業グループ
- 生活インフラ・観光インフラをベースに付加価値の高いサービスを提供し、活力ある信州をリードしている企業グループ
- 環境に配慮した活動を積極的に実践している企業グループ

MISSION（ビジョンを実現するためになすべきこと＝中期的な経営戦略・主要施策）

果たしたい役割・使命

- 時代を先取りする新たな事業の開発やサービスの展開により、地域に『楽しさ・ときめき』を提供する
- 時代と環境変化に即応する柔軟な企業風土の醸成により新たな事業価値を創造する
- SDGsに積極的に取り組み、社会課題解決に資する役割を果たす

実現したいこと

- 積極的な人への投資により、従業員の資質と能力をUPさせると共にエンゲージメントを向上させる
- 既存事業の深掘りにより長期安定的な収益基盤を固める
- 新規事業領域への踏み込みを強化し、グループシナジーのさらなる向上を図る

VALUE（ビジョンを実現するために大切にしている価値観＝行動規範・組織風土）

- グループ役職員全員が明確な将来展望を持ち、失敗を恐れず革新的な思考に基づいた変革を実践する
- グループ横断的な体制構築により、アルピコ企業グループのシナジー効果を最大限に発揮する

経営方針

- 将来を見据えた積極投資・施策を行うことで、アルピコグループの成長基盤を確立する

中期経営計画の骨子：3つの基本方針

- 2035年に向けた持続可能な成長を目指し、3つの基本方針を設け、各戦略を着実に実行していく

1. 大胆な成長戦略

- 「既存事業の成長」に加え、「M&Aの推進」「事業エリア深耕・拡大」「新規事業創出」により成長を加速させる
- 事業の拡大は、地域からの信頼・ネットワークで優位性があるエリアを想定し、グループシナジーを最大限発揮し、多角的に展開する

2. 変化に立ち向かう柔軟な構造改革

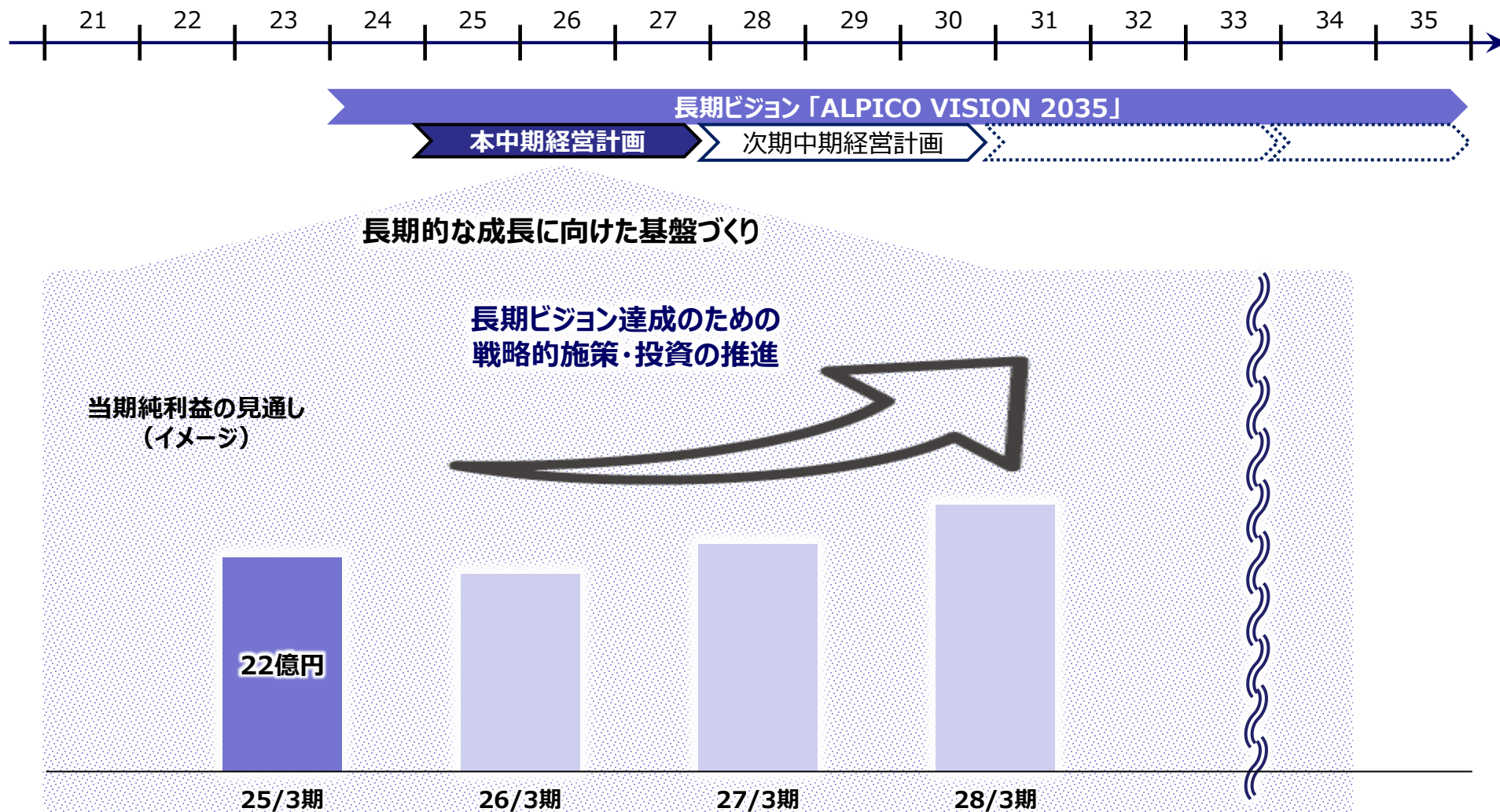
- 変化の激しいビジネス環境において、柔軟で適応力のある組織を築るため各種取り組みを展開

3. 地域の未来を創るサステナビリティ経営

- 持続的な価値創造の最重要基盤である人材への投資を強化
- 地域に根差す企業グループとして、持続可能な社会実現に貢献

連結業績推移（計画）

- 中期経営計画期間においては既存事業の拡大と同時に、中長期的な課題へ対応した新しい事業戦略を遂行するため、2035年を見据えた成長戦略の基盤を築く施策を着実に推進



APPENDIX

会社概要

会社名	アルピコホールディングス株式会社	
本社所在地	長野県松本市井川城2丁目1番1号	
代表者	代表取締役社長 佐藤 裕一	
設立年月日	2008年5月1日（旧松本電気鉄道からの株式移転により設立）	
創立年月日	1920年3月25日（筑摩鉄道を創立）	
事業内容	流通、運輸、観光の各事業を中心とした企業グループの企画・管理・運営	
資本金	1,304百万円	（2025年3月31日現在）
株主数	11,995人	（同上、前期末比 10,595人増）
単体従業員数	41人	（同上）
連結従業員数	1,953人	（同上）
関係会社	計11社	
連結営業収益	103,836百万円	（2025年3月期）
連結営業利益	3,412百万円	（同上）
連結当期純利益	2,292百万円	（同上）



アルピコホールディングス本社社屋（松本市）

経営理念

アルピコグループは、
信州に暮らす人々とその素晴らしい自然環境を愛し
「安全・安心」「便利」「快適」
「楽しさ・ときめき」「知識」の提供を通じて
豊かな地域社会の実現に貢献します。

行動指針

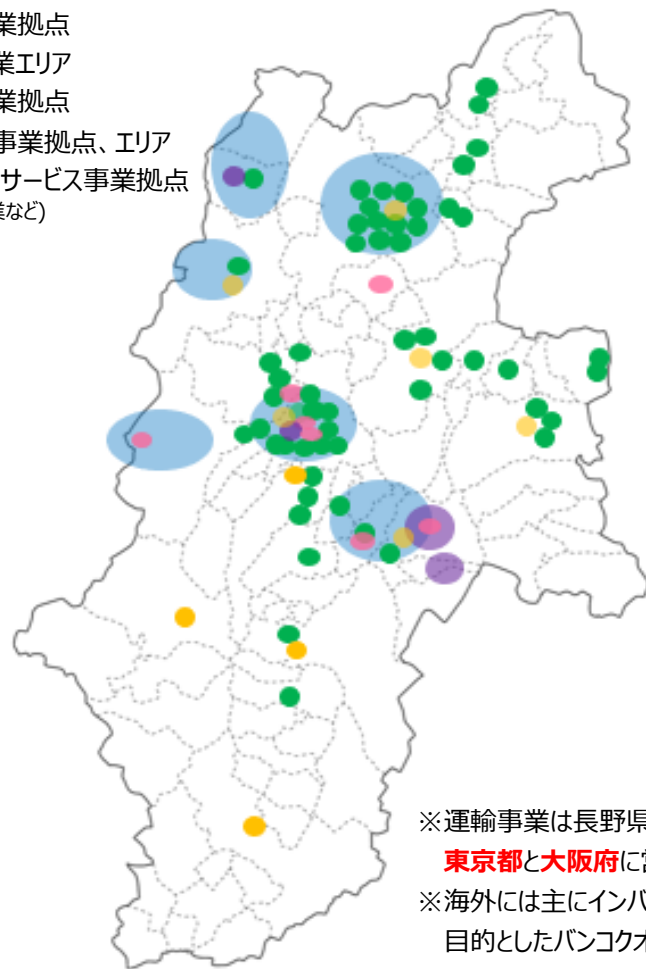
アルピコグループの宝は
地域のお客様からの信頼です。
私たちはお客様の満足でNo.1を目指し、
誠実に行動します。

アルピコグループとは

アルピコグループは長野県中心に流通・運輸・観光・不動産事業等を展開する
長野県を代表する“総合生活関連企業グループ”

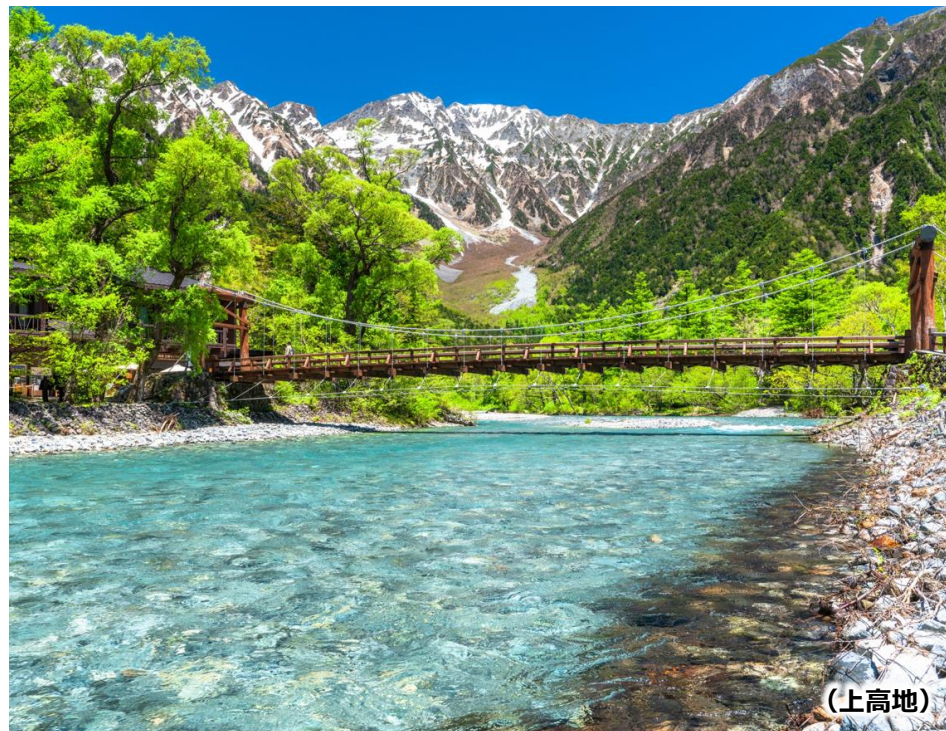
【ALPICOグループの事業拠点、エリア】

- 流通事業拠点
- 運輸事業エリア
- 観光事業拠点
- 不動産事業拠点、エリア
- その他のサービス事業拠点
(保険事業など)



※運輸事業は長野県以外にも
東京都と**大阪府**に営業所があります
※海外には主にインバウンド誘客を
目的としたバンコクオフィスがあります

ALPICO GROUP



【社名（ALPICO）の由来】

日本アルプスを背景とする地域において事業展開していることから
「**ALPINE CORPORATIONS**」より「**ALPICO アルピコ**」と命名

アルピコグループの事業会社

アルピコホールディングス(株)

事業会社*

主な事業内容

流通事業

(株)デリシア

スーパーマーケット事業、外食事業、ピコカード事業

(株)マックドラッグ

調剤薬局、ドラッグストアの運営

運輸事業

アルピコ交通(株)

乗合・貸切バス、鉄道、サービスエリア、不動産、自動車整備

アルピコタクシー(株)

一般タクシー、貸切バス、自治体バス受託運行

観光事業

アルピコホテルズ(株)

ホテル6施設の運営、船舶事業

アルピコ長野トラベル(株)

旅行代理店

不動産事業

アルピコリゾート&ライフ(株)

ゴルフ場、別荘地管理、レジャー

アルピコ蓼科高原リゾート(株)

別荘地管理

その他事業

アルピコ保険リース(株)

保険代理店、リース業務

松電事業協同組合

グループETC団体利用事業

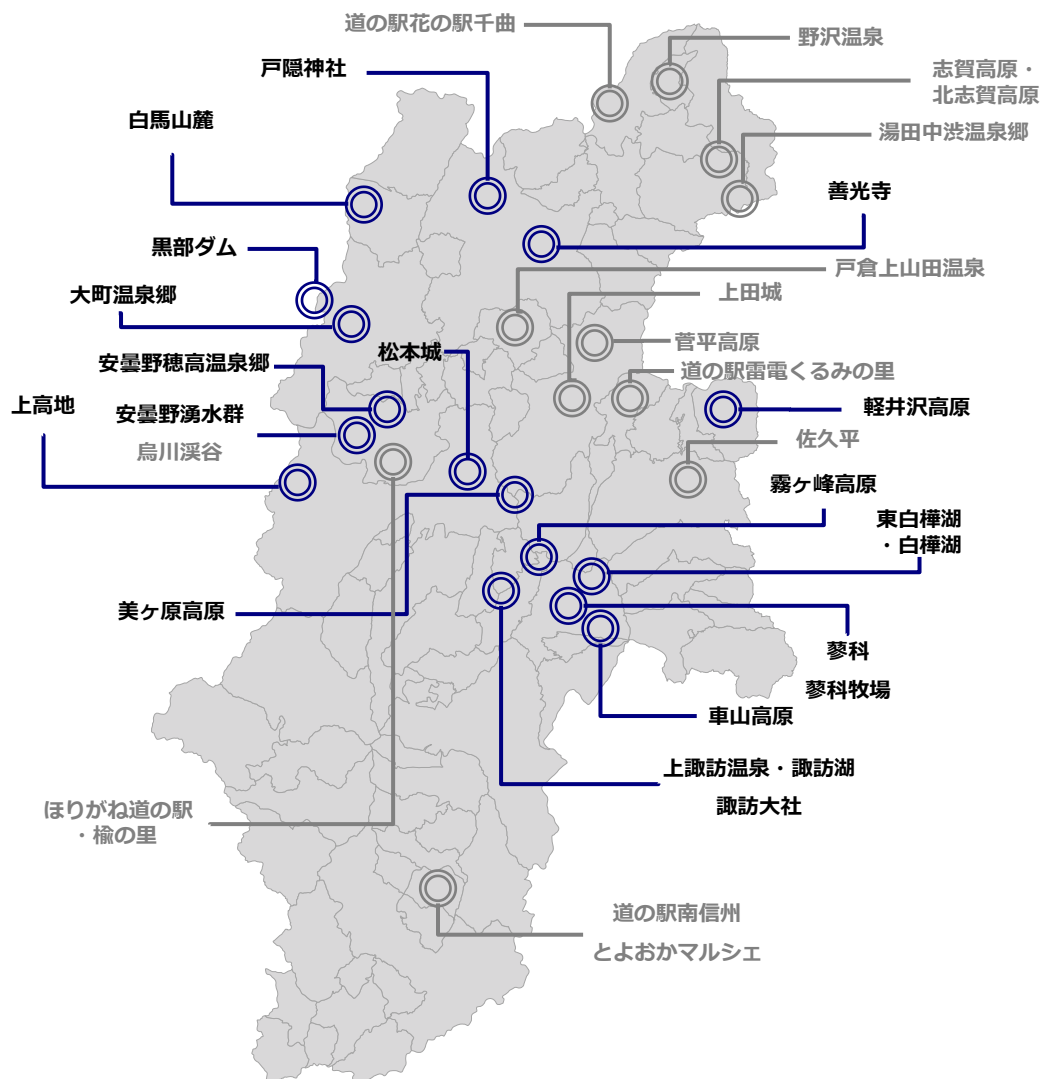
長野エフエム放送(株)

FM放送事業

*2025年3月31日現在、各社に対する議決権の保有割合は100.00%（長野エフエム放送(株)を除く）

国内外から人気の高い観光地において事業展開

【2023年 長野県主要観光地（延べ利用者数上位30カ所）*】



No.	観光地名	利用客数（千人）
1	軽井沢高原	7,713
2	善光寺	5,803
3	上諏訪温泉・諏訪湖	3,593
4	志賀高原・北志賀高原	2,673
5	白馬山麓	2,339
6	霧ヶ峰高原	2,122
7	東白樺湖・白樺湖	2,110
8	蓼科	1,627
9	戸隠高原	1,511
10	上田城跡	1,357
11	上高地	1,327
12	安曇野湧水群	1,304
13	道の駅花の駅千曲川	1,108
14	諏訪大社	1,099
15	美ヶ原高原	1,087
16	道の駅南信州とよおかマルシェ	1,034
17	菅平高原	1,026
18	安曇野穂高温泉郷	1,024
19	湯田中渋温泉郷	1,005
20	佐久平	918
21	道の駅雷電くるみの里	909
22	松本城	885
23	大町温泉郷	800
24	戸倉上山田温泉	765
25	黒部ダム	748
26	烏川溪谷	725
27	野沢温泉	715
28	車山高原	702
29	蓼科牧場	694
30	ほりがね道の駅・楡の里	692

*出典：長野県「令和5年 観光地利用者統計調査結果」

青色の◎は当社グループの事業エリアの観光地

主要な事業セグメントと数字でみる各事業

➤ 「流通」「運輸」「観光」「不動産」を主力事業として展開

流通事業



食品スーパー「デリシア」51店舗、「業務スーパー・ユーパレット」9店舗を運営。また、移動販売「とくし丸」やネットスーパー、無人店舗なども展開

店舗数*

60店舗

長野県内最大店舗数

運輸事業



松本・長野・茅野の市街地や、上高地、白馬、蓼科などを事業エリアとしバスやタクシーを運行。バス395台、タクシー408台（いずれも長野県内最大車両数）、鉄道8両保有

バス・タクシー車両*

803台

長野県内最大車両数

観光事業



松本市内5施設、諏訪市内1施設で宿泊事業を運営。それ以外ではサービスエリア4施設（諏訪湖上、梓川上、姨捨上下）や、蓼科でゴルフ場やキャンプ場などを運営

客室数*

667室

長野県内企業として
トップクラスの運営施設数

不動産事業



蓼科・原村エリア（標高1,200m～1,800m）で別荘地（949万㎡）を開発。また松本駅前に商業施設「アルピコプラザビル」や白馬の八方バスターミナルなど長野県内各地に不動産を保有

別荘敷地面積*

949万㎡

国内トップクラスの標高に
位置する広大な別荘地

*各数値は2025年3月末時点（弊社調べ）

アルピコグループの沿革

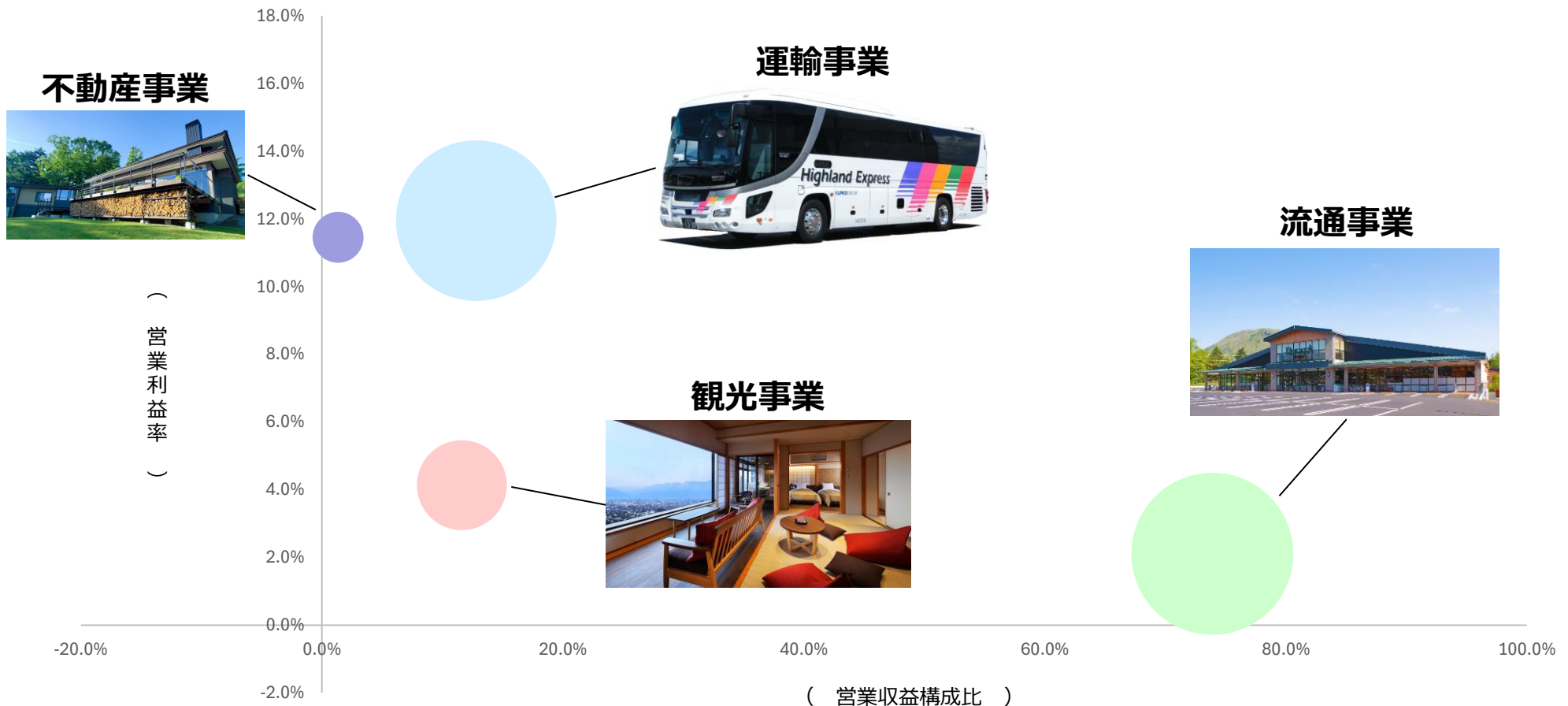
➤ 祖業は鉄道業。「流通」「観光」「不動産」と事業領域を拡大し今日に至る



多様な事業展開

- グループの基幹事業で安定成長を続ける流通事業と、継続的な訪日外国人観光客の増加に伴い今後も成長が期待できる観光・運輸事業による、バランスのとれた事業ポートフォリオ

【各事業の営業収益構成比と営業利益率（2025年3月期）*】



* 営業利益率は報告セグメントベース、バブルの大きさは営業利益の規模

